

『フランダースの負け犬』

『フランダースの負け犬』 作・中屋敷法仁

【登場人物】

ヒュンケル
バラック
ベルニウス
クレーゼル
クルック
ベーム
ビューロウ
ヘンチュ

【0】

開幕。出演者一同、登場。

「ヒュンケル」役を演じる俳優による前説。

ヒュンケル

『フランダースの負け犬』という舞台で楽しんでいたばかりだ
きたいと思います。皆さま、『フランダースの犬』という作
品はご存知でしょうか？ テレビアニメ「世界名作劇場」な
どでタイトルは有名ではございますが、この原作が、どのよ
うなものだったかについてはあまりご存知ない方も多いよう
ですね。ざっくりご説明しましょう。

『フランダースの犬』の主人公はネロ。画家を目指す若き少
年ですが、家は貧しく、村人たちからひどいイジメにあいま
す。相棒である犬のパトラッシュと共に、なんやかんやが
んばるんですが、志むなしく、最後には大聖堂にあるルーベ
ンの絵の前で死んでしまいます。ラストシーンには有名です
ね。ラストシーンしか知らない、なんて方も多かろうと思われま
すが、じゃあどんな感じか、ちょっとやってみましょうか。
少年ネロと、ひん死のパトラッシュですね。僕がネロをやる
ので、あなた（バラック）パトラッシュお願いします。
『フランダースの犬』のラストシーンです。

【1】

「フランダースの犬」の再現。

倒れているバラック（パトラッシュ）に寄り添うヒュンケル（ネロ）。

ヒュンケル

パトラッシュ…。疲れたのかい。おやすみ。僕も疲れたよ。
何だか、とても眠いんだ。パトラッシュ…。

ベーム、「天使」として登場。

ベーム やがて、大聖堂の天井からほのか光がさし込み、天使たちがネロとパトラッシュを取り囲みました。天使たちはネロとパトラッシュを連れて、空高く舞い上がって行きました。お母さんやおじいさんのいる遠い国へと旅立って行ったのです。もうこれからは、寒い事や悲しい事やお腹の空く事もなく、みんな一緒に、いつまでも、楽しく暮らすとでしよう。

ヒュンケル …くだらないっ。

【2】

「ドイツ陸軍宿舎・ヒュンケルの部屋」
ヒュンケルとバラック。

ヒュンケル くだらない。まったくもってくだらないっ。
バラック なんで？ 名作だよ。「フランダースの犬」。

イギリスじゃあ、みんな読んでるんだって。

ヒュンケル ハッ。イギリス人も随分と腐った根性してるんだなあ。

バラック 何てこと言うんだよ。感動するだろ。「フランダースの犬」。

あーあ、かわいそうなネロ。かわいそうなパトラッシュ…。

ヒュンケル …これ、返すよ。

バラック また読みたくなったら言ってね。「フランダースの犬」。

ヒュンケル いらぬよ。そんな本読む時間があつたら、軍略の勉強でもしたほうがいい。

バラック へー。君って、真面目なんだねー。

ヒュンケル ああ。本気だからね。

バラック 本気？

ヒュンケル 僕はドイツ一の軍人になる。今でこそ三等兵だが、ゆくゆく

は立派な將軍になる。そして、このドイツを世界最強の国家にする。それが僕、ミヒヤエル・ヒュンケルの夢だ。

バラック ……くあっこいいーっ。

ヒュンケル ……ん？

バラック 君って、すごくかっこいいよー。

ヒュンケル あ、ああ。ありがとう。

バラック (真似して) 「ありがとう」…うわー。すごいなー。僕、君

のこと、好きになっちゃいそうだよ。

ヒュンケル やめてくれ、男同士でキモチ悪いっ。

バラック え、いいじゃん？ 好かれるのはいいことだよ。

ヒュンケル 君ねえ、馴れ馴れしいよ。友達でもないのに。

バラック 友達じゃないか。ね。「ミヒヤエル・ヒュンケル」っ。

ヒュンケル 許可なく呼び捨てで呼ぶなっ。君なんか、友達じゃない。

バラック 友達じゃないかー。同じ部屋に住んでるし。

ヒュンケル それは、たまたまクジ引きで一緒になっただけだ。

バラック 本も貸したじゃん。「フランダースの犬」。

ヒュンケル それは君が熱心に読んでるから、ちよっと気になっただけだ。

バラック 気になったの？ やっぱ、僕に興味があるんだね。

ヒュンケル 無いよっ。

バラック 隠さなくていいよ。分かってるから。

ヒュンケル 何も隠してないっ。だいいち僕、君の名前も知らないんだからね。

バラック えー。教えたじゃん。また忘れたのー。

ヒュンケル ごめんね。覚える気ないからさ。

バラック もう一度言うよ。僕の名前は、バラック。

クリスチャン・バラックさ。

「ドイツ陸軍 兵士詰所」

ベルニウス、登場。

ベルニウス そりやおかしなやつと一緒にになったもんだ。

ヒュンケル ヘンに気に入られちゃってさ。困ってんだよ。

ベルニウス でもまあ、悪いやつじゃなさそうだし。

仲良くしてやればいいじゃん。

ヒュンケル 仲良くなんかできるか。俺は勉強がしたいんだ。

ベルニウス 相変わらず真面目だなあ、お前は。

ヒュンケル 本気だからな。

ベルニウス 本気？

ヒュンケル 俺はドイツの軍人になる。今でこそ三等兵だが、ゆくゆくは立派な將軍になる。そして…。

ベルニウス 世界最強の国家にする、だろ？ もう聞き飽きたよ、優等生。

ヒュンケル ふんっ。

ベルニウス そんなヒュンケルとは士官学校時代からの同期、ベルニウスです（自己紹介）。

ヒュンケル ベルニウス。

ベルニウス あ、はい。

ヒュンケル お前はどうかんだ？

ベルニウス え？

ヒュンケル 部屋。どんなやつと一緒になんだ。

ベルニウス あ、それがさ。やべーんだって。

「ベルニウスの部屋」

クレーゼル、登場。

ベルニウス あ…この部屋の人？俺もこの部屋の人。

クレーゼル …。

ベルニウス 今日から当分一緒だけど、よろしくね。

クレーゼル …。

ベルニウス お名前なあに？

クレーゼル …。

ベルニウス あ、ごめんっ。名前を名乗るなら自分から。俺の名前は…。

クレーゼル クレーゼル。

ベルニウス え？

クレーゼル クレーゼル。

ベルニウス あ、ク、クレーゼル君だね。ありがとう。俺はベルニ…。

クレーゼル ……(退室)。

ベルニウス あ、ちよつと…。

「兵士詰所」

ヒュンケルとベルニウス。

ベルニウス 超ノリワリーの。なんか、こつちニラんでるしさあ。

ヒュンケル でもまあ、変なやつじゃなさそうだし。

仲良くしてやればいいじゃん。

ベルニウス 無理だよお。絶対仲良くなれない。

ヒュンケル がんばれって。

ベルニウス 無理。絶対ムリー。

ヒュンケル 安心しろ。俺が、ついてるから。

ベルニウス ヒュンケル…。

ヒュンケル 友達だろ。

ベルニウス 友達だな。わー。

ヒュンケル そうだ。士官学校を卒業し、俺はとうとう軍人になったんだ。

もう子供じゃない。ドイツの為に戦う、一人の戦士だ。何も

恐れるな。前進あるのみ。ミヒヤエル・ヒュンケルの軍人と

しての歴史は、ここから始まるんだっ。

イメージーン。士官学校の軍事訓練。

ヒュンケル とまあ、こんな感じで、入隊して一ヶ月がたった。ドイツ陸

軍の中で、俺は常に輝き続けた。馬術、剣術、射撃…何をや

らせても俺が一番。向かうところ敵無しだ…(高笑い)。

【3】

ベーム、登場。

ベーム いやー、ヒュンケル君。君はとおっても優秀だねえ。褒めてあげるよ。あのね、すごく褒めてあげるよ。

ヒュンケル ありがとうございます。 (独白) この人はベーム將軍。めちやめちや偉い。早くも完全に気に入られてしまった。

ベーム 今日君を呼んだのは他でもない。実は、君に会いたがっておられるお方がいてね。クルツク將軍。クルツク將軍っ。

クルツク、登場。

ヒュンケル (独白) クルツク將軍…。ベーム將軍もめちやめちや偉い人だけど、この人はめつちやめつちや、めえつちや偉い…。

クルツク クルツククルツククルツ… (?)。

ベーム いやー、クルツク様。ようこそお越しくございました。

クルツク 君が、ヒュンケル君だね。

ベーム はい。この者がミヒヤエル・ヒュンケルでございます。

クルツク ベーム君。僕は彼に聞いているのだ。

ベーム し、失礼しました。

クルツク 会えて嬉しいよ。アレクサンダー・クルツクだ。

ヒュンケル ミヒヤエル・ヒュンケルであります。きつ (いい面構え)。

クルツク いい面構えだ。

ベーム ありがとうございます。きつ (いい面構え)。

クルツク 君じゃないよベーム君。

ベーム …。

クルツク 陸軍上層部はうきうきしているよ。とてつもない男が現れたんだからね。

ヒュンケル 身に余る光栄です。きつ (いい面構え)。

クルツク ミヒヤエル・ヒュンケル。

ヒュンケル はっ。

クルック 期待しているぞ。訓練を怠るな。

ビューロウ、登場。

ビューロウ やめろ、クルック。

ベーム この声は…。ビューロウ將軍。

ヒュンケル (独白)クルック將軍とおんなじくらい偉い。

ビューロウ 將軍が、一兵卒ごときに、軽々しく声をかけるな。

クルック 誰に声をかけようと私の勝手だ。

ビューロウ 監察長官という身分をわきまえろ。

クルック 頭が固い男は嫌われるぞ。

ビューロウ 頭の柔らかいお前の方が、俺は嫌いだがな。

クルック もうたくさんだ。ヒュンケル君…また後でな。

ヒュンケル はっ。

ベーム また後でな。

ヒュンケル はっ。

クルック、ベーム、退場。

ビューロウ クルックには気をつける。あいつが考えていることは自分の出世のことだけだ。うかうかしていれば、いいように利用されて、やがて捨てられる。

ヒュンケル …。

ビューロウ カール・ビューロウだ。困ったことがあったら、いつでも俺のところに来い。

ヒュンケル はっ。

ビューロウ あ、それと…困ったことがあったら、いつでも俺のところに来い。「ミヒヤエル・ヒュンケル」。

ヒュンケル …。

ベルニウス、登場。

ベルニウス　なんてヤツだ…可愛がられてるじゃーん。ベーム將軍にも、その上のクルック將軍にも、そことタメはるビューロウ將軍にも…可愛がられてるじゃーん、お前ー。

ヒュンケル　自分の可愛さが、怖い。出世街道まっしぐらだ。

ベルニウス　置いてかないでくれよ…同期の俺を置いてかないでくれよ…。

ヒュンケル　何言ってるんだベルニウス。一緒に成り上がっていいこうぜ。

ベルニウス　ヒュンケル…。

ヒュンケル　友達だろ。

ベルニウス　友達だな。わー（どっか行った）。

高笑いする、ヒュンケル。

【4】

「ヒュンケルの部屋」

バラック、見るからに異常な精神状態で登場。

ヒュンケル　…何やってんだ。

バラック　あ、お帰りなさい。

ヒュンケル　何やってんだよ。

バラック　あ、これは「フランダースの犬」読んでいたら、今ネロが…

天使が…パトラーツシュ…（うんぬん）

ヒュンケル　（独白）うん。関わらないようにしよう。

バラック　あれ？君から話しかけてくるなんて、今日は、いつになく

ご機嫌だね。

ヒュンケル　そんなことないよ。

バラック　訓練の後で、偉い人たちに話しかけられてたからねえ。

それで機嫌がいいのかな。

ヒュンケル　なんで知ってたんだ。

バラック　訓練で、いつも君のこと、見てるから。

ヒュンケル　やめてくれ。キモチ悪い。

バラック　（真似して）「やめてくれ。キモチ悪い」

…本当にかっこいいよねー。僕、ますます好きになったよ。

ヒュンケル　僕なんか見てないで真面目に訓練…ん？　…おい、君。

バラック　「君」だなんて水臭いな、名前で呼んでよ。

僕の名前はバラック。クリスチャン・バラックさ。

ヒュンケル　（シカト）君。訓練で僕を見たことがあるのか？

バラック　いつも見てるよ。

ヒュンケル　おかしいな。僕は訓練中、一度も君の姿を見たことがない。

いや…訓練だけじゃない。廊下でも食堂でも集会でも。前から

ら気になっていたんだけど…普段君は何をしているんだ？

バラック　あー…ちよっとね。

ヒュンケル　ちよっと？

バラック　ちよっとね、ちよっと。

ヒュンケル　ちよっとって何だよ。

バラック　僕はいつも、医務室にいるんだ。

ヒュンケル　医務室？

バラック　その窓から、君の事見てるんだよ。

ヒュンケル　医務室？　医務室って、どこか悪いのか？

バラック　病気なんだ。

ヒュンケル　…え。

バラック　訓練にはほとんど参加してない。せっかく入隊したのになあ。

ヒュンケル　訓練にも出られないなんて…そんなに重い病気なのか？

バラック　ああ。すごく重い。

ヒュンケル　すごく重いつて…どうせ休んでれば、すぐ治るんだろ？

バラック　…（首を振る）。

ヒュンケル　…何ていう病気なんだ？

バラック　「恋の病」だよ。

ヒュンケル　…お？

バラック

医務室にすごい美人の看護婦さんがいるんだ。一目見てから、俺はもう訓練どころじゃない。…看護婦さんっ（絶叫）。

ヒュンケル

は？

バラック

君も一度見てみるといいよ。その看護婦さん、本当に美人なんだよ。

ヒュンケル

え、ちょっと待って待って。つまり君は、その看護婦さんに会いたいが為に、訓練をサボってるのか？

バラック

違うよ、病気だってば。

ヒュンケル

病名は？

バラック

「恋の病」。

ヒュンケル

いや、だからさ…。

バラック

すごいよ。その看護婦さんね、マリエンブルグの生まれらしくて、肌が絹みたいに真っ白なんだ。

ヒュンケル

…そ、そうか…大変なんだな。

バラック

君も見たら惚れちゃうからね、ライバルだね。

ヒュンケル

そんなことないよ。

バラック

え、本当？じゃあ僕だけ狙っていいの？

ヒュンケル

うん。

バラック

じゃあ頑張れって言って。

ヒュンケル

頑張れ。

バラック

頑張るよ。看護婦さんっ（絶叫）。

ヒュンケル

（独白）やばい…。やばいやばいっ。「こいつ」、「へんなやつ」なんてレベルじゃない。完全にダメ軍人だ。

【5】

「兵士詰所」

ベルニウス、登場。

ベルニウス いるんだねーそういうやつ。

ヒュンケル いるんだよーそういうやつ。なんでもそいつ、リヒターフェルトを卒業しているらしいんだ。

ベルニウス リヒターフェルトっ。エリートじゃねえかつ。

ヒュンケル いい学校出てるってだけで陸軍に入隊できたんだよ。信じられない。

ベルニウス いや、でもさでもさ、入隊してるってことは、入隊テストは合格したんだろ？

ヒュンケル あ、そうか…。

ベルニウス それに、あのリヒターフェルトを卒業するなんて、並大抵の努力じゃできねえはずだ。実は、ものすごい能力とか隠し持ってるんじゃないの？

ヒュンケル それは無い。たとえ能力があつたとしても、それを使える根性がない。ダメなやつだよ本当。

ベルニウス 能力と言えば…あいつすごいぞ。クレーゼル。

ヒュンケル え？ 誰？

ベルニウス 俺と相部屋のやつだよ。すごい無愛想な男。

「軍事訓練…フェンシング」

クレーゼル、登場。他の俳優達は雑魚として登場。

雑魚 クレーゼル君っ。僕たちとひとつ手合わせを頼むっ。

クレーゼル またオマエラか。何度やっても同じだ。

ベーム いやいやっ。今日の僕らは、この間とはひと味もふた味も違うぞっ。訓練しちやっさもんね。かかれーっ。

一同、クレーゼルに飛びかかっていくがふつーにやられる。

ヒュンケル、ベルニウス、登場。

ヒュンケル お見事。強いなあ。君、見込みあり。

ベルニウス お、おい。ヒュンケル…。やめとけて。

クレーゼル 誰だてめえっ。

ヒュンケル ミヒヤエル・ヒュンケルだ。

クレーゼル あー。どっかで聞いた名前だな。

ヒュンケル 今のドイツ陸軍で僕のことを知らないやつはもぐりだぞ。

クレーゼル 存じてますよ。上に可愛がられることしか考えてない、士官

学校上がりのお坊ちゃん、だろ？

ヒュンケル 君ね…初対面の相手にそれはないだろう。

クレーゼル 本当のことを言ったただけだ。たいして強くもねえくせに。

ヒュンケル ほう。確かめてみるか？

クレーゼル おもしろえっ。

ベルニウス (止めに入る) やめろやめろやめろーっ。若く、才能のある

二人が、どうしてこんなことで…

ヒュンケル (シカト) はっ。

ヒュンケル、クレーゼル、激しく立ち回り。

やがて、ヒュンケルの剣がクレーゼルの襟元をとらえる。

ベルニウス わ、わー。さすがだなーヒュンケル。あんたが大将っ。

ヒュンケル …君。失礼なマネはやめたまえ。

ベルニウス え？

ヒュンケル 僕をバカにしているのかい？

クレーゼル 何の話だ？

ヒュンケル 手加減しただろ。

クレーゼル してねえよ。

ヒュンケル わざと僕に打たせたね。

クレーゼル あんたが強かったんだ。

ヒュンケル どうして僕の右肩を見逃した。君が左によけた時、明らか

に僕の右肩にスキが生まれてしまった。どうして見逃した？

クレーゼル …あんたみたいなエリート、下手に傷つけたりすれば後々厄

介だからな。

ヒュンケル 僕は別段気にしないよ。

クレーゼル 周りが気にするんだよ。わかってねえな。

ヒュンケル ……名前は？

クレーゼル ……クレーゼル。

ヒュンケル 僕はミヒヤエル・ヒュンケル。ベルニウスと同じ、ベルリン士官学校卒業だ。君は、どこの卒業生だい？

クレーゼル 士官学校なんて出てねえよ。俺の家はアーヘンの農家だ。

ヒュンケル 農家？ ……ということは…国民兵か？

クレーゼル ロクに勉強もしてねえ国民兵上がりよ。あんたらエリート軍人様とは、住む世界が違う。

ヒュンケル ベルニウス。もしかして僕は嫌われてるのかな？

ベルニウス いや、そんなことはないと思う…

クレーゼル 俺はよ、士官学校上がりが大嫌いなんだ。俺たち農民出をバカにしやがる。

ヒュンケル そんなつもりはないよ。君は、剣術では僕より断然上だ。尊敬している。

クレーゼル 嘘つけ。「部下にしたら使える」くらいにしか思ってねえんだろ。

ヒュンケル まいったなあ…僕はただ、仲良くしたいだけなんだ。友達になってくれよ。

クレーゼル 友達だあ？ バカじゃねえのか。

ヒュンケル バカで結構。友達になってくれ。

ベルニウス おい、クレーゼルっ（クレーゼルに近づく）。
クレーゼル 何だよ。

ベルニウス あのな、こいつは今や、飛ぶ鳥落とす勢いなんだよ。すんげーノリにノッチャってんの。分かる？

クレーゼル 分かるよ。それで？

ベルニウス 仲良くしといて絶対損は無いつてば。

クレーゼル ……どういふことだ？

ベルニウス だから、友達になっておけば…出世に役立つって話よ。言わせんなよバカ。

クレーゼル あのな…俺みたいになやつに出世なんて関係ねえよ。

ベルニウス いや、そう言わずにさ。

クレーゼル 農民が將軍になれるかよ。何度も言うが、住む世界が違うんだ。

ベルニウス 若く、才能のある二人が…どうしてこんな…。

ヒュンケル …。

クレーゼル …でもまあ…。

ベルニウス おっと…？

クレーゼル 俺の剣術の相手役には最適かもな。

ベルニウス はいはい、それで…。

クレーゼル 別に、いいぞ。

ベルニウス 別にいいぞ…？

クレーゼル 友達になってやっても。

ベルニウス ツンデレっ。なんだよ、お前、ツンデレかよっ。俺はじめて

見たよ、こんな分かりやすいツンデレ…。

ヒュンケル これからもよろしく（握手）。

ベルニウス うんうん。一件落着。

ヒュンケル しかし、本当に強いな。国民兵というと、軟弱なやつばかり

ってイメージがあったんだが。

クレーゼル 俺は、他の連中とは鍛え方が違う。軍役という商売が俺の全

てだ。

ヒュンケル おかしなもんだな。君のような男がいるかと思えば、全くそ

の逆もいるんだよなあ。

クレーゼル 何の話だ？

ヒュンケル いや、つまりさ、士官学校を卒業しているにも関わらず、さ

っぱりダメな軍人っていうの？ いるんだよねえ、そういう

やつもさ。

バラック （登場）それって僕のこと？

ヒュンケル そう、お前のことだよ…ってお前っ。いつからいたんだっ。

バラック （クレーゼル、ベルニウスを見て）誰ー？ お友達？

ヒュンケル そう、彼らは友達だよ。「彼らは」ね。

バラック 初めまして。ヒュンケルがお世話になっています。ヒュンケ

ルの友達です。

ヒュンケル こらっ。友達じゃないって、お前なんか。
ベルニウス あー、ヒュンケル。これが例の問題児か？
ヒュンケル そうこいつ。こいつが、ええっと…名前は…。
バラック また忘れたの？

僕の名前はバラック。クリスチャン・バラックさ。

クレーゼル バラック？ お前がウワサのバラックか？

バラック ウワサ？

ヒュンケル なんだよウワサって？

ベルニウス すごいウワサになってるぞ。バラックっていう男が、入隊し

てから全然訓練に参加してないって話。

クレーゼル 皆知ってるぞ。

ヒュンケル 皆知ってるの？

クルック もちろん私も知っているっ。

ベーム もれなく私も知っているっ。

【6】

クルック、ベーム、登場。

クルック クリスチャン・バラック…軍人として非常に問題があるそう

だねえ。

ベーム はい。訓練はサボるわ、メシは人一倍食うわ、まわりの緊張

感は緩めるわ…とにかく問題山積みですっ。

クルック ヒュンケル君も同じ部屋で生活して大変だろう。同情するよ。

ヒュンケル (独白) あれ？ この流れだと、ひよっとして部屋を変えて

くれるのかな？

クルック しかし…当分は同じ部屋で生活してくれたまえ。

ヒュンケル しょんぼり。

ベーム そうすな。ヒュンケル君と生活すれば、バラックも軍人と

しての自覚が目覚めるでしょう。

ヒュンケル ベーム將軍。勘弁してくださいよ。僕部屋変わりたいんです。
ベーム わがまま言うな。バラックを教育するには、君が適任なんだ。
クルック 頑張ってくれよ。

ヒュンケル …あの、ベーム將軍。
ベーム どうした？

ヒュンケル ひとつ、お聞きしてもよろしいですか？
ベーム なんだね。

ヒュンケル どうして、あの男を除隊させないんですか？ あんな男、ク
ビにするのが当然の処置だと思えます。このままでは、真面
目に訓練に参加している他の者達に示しがつきません。

ベーム あー…正論…。ヒュンケル君。悪いが、そういうことは…。
ヒュンケル 何故ですか？。何故あの男を守ろうとするんです。

ベーム それはだな…。

ヒュンケル 何ですか？

ベーム …。

クルック …ベーム君。もういい。

ベーム クルック様。

クルック ヒュンケル君には、話さなければいけないと思っていた。

ベーム しかし…。

クルック いいんだよ。…ヒュンケル君。クリスチャン・バラックが、

リヒターフェルトを卒業しているのは知っていたか？

ヒュンケル はい。本人から聞きました。

クルック 実はな…バラックは、リヒターフェルトの卒業試験は不合格

だったんだ。

ヒュンケル え？

クルック しかし、卒業した。

ベーム ついでに言うと、バラックは入隊テストも文句なしで不合格

だった。それでも、入隊した。

ヒュンケル …どういうことですか？

クルック 非常に言いにくいんだが…バラックはな、モルトケ様の遠い

親戚にあたるんだ。

ヒュンケル モルトケ…参謀総長閣下の…。

バラック役の俳優が、モルトケとして登場。舞台をかき回す。

モルトケ はいどもー。そうです。私が参謀総長のモルトケです。ドイツ陸軍で一番偉い男ですよー。どのくらい偉いかと言うと（うんぬん）…クルちゃん。バラックは私の遠い親戚だ。よろしく頼むぞ。

クルック はっ。

モルトケ、退場。

クルック だから…まあ、そういうことだよ。

ヒュンケル ……どうということですか？

ベーム そういうこと。

ヒュンケル ……コネってことですか？

クルック わかってくれ。

ヒュンケル わかりません。参謀総長の親戚？ それは何だっというんですか。入隊テストが不合格なのに、どうして入隊させるんですか。納得できません。

ベーム ヒュンケル君。大人には大人の事情ってもんがあるんだよ。

ヒュンケル こういうことを繰り返してはいけません。ドイツ陸軍を腐らせるおつもりですか？

クルック ……。

ヒュンケル あ、やべっ。し…し、失礼しましたあつ。

クルック いやいや、いいんだ…。君のようなイキのいい若者こそ、わがドイツ軍には相応しい。相応し過ぎて蹴飛ばしたくなる。ベーム君っ。

ベーム はい。

クルック ヒュンケル君のこと、蹴っ飛ばしてもいいかな？

ベーム あ、それはもちろん結構でございます。兵士達の命はクルッ

ク様のもの。ご遠慮なさることなどございません。

ばかやろおー（ベームを蹴っ飛ばす）。

（！）

クルック この私が、愛する部下を蹴っ飛ばすわけないだろうっ。

ベーム …… たしかに。たしかに、たしかに、ごもつとも。

クルック ヒュンケル君。君の気持ちはよく分かる。しかし、上に立つべき人間は、理想のみを追求してはいけない。組織が円滑に機能するためには、時には納得のいかないこともやらなければいけないのだ。

ヒュンケル …… ですが。

クルック バラックを軍人にしてやってくれ。優秀でなくていい。バカで結構。参謀総長閣下の顔が立つようにしてくれればいいんだ。頼んだぞ。

ヒュンケル …… いや、しかし。

クルック ヒュンケル君。バラックの面倒をちゃんと見てくれたら、君の事はもちろん参謀総長閣下にご報告するつもりだ。

ヒュンケル え…？

クルック そうすれば…君の出世だって…分かるな？

ヒュンケル （独白）殺し文句だった。そんな言葉に殺された自分に吐き気がした。俺もかなり腐っている。あんなバカ、ドイツ軍の恥だ…しかし…出世…

クルック どうするのがいいのか、君ならわかってるはずだよ。頭のいい君ならね。

ビューロウ、登場。

ビューロウ 何をしている。

クルック ビューロウ。

ビューロウ 何をしているんだ。

クルック 頼むよ。私につきまとわないでくれ。

ビューロウ つきまとわれてるのはこいつの方だ。

ミヒヤエル・ヒュンケル、どうした？

ヒュンケル

なるほど…やはり、待遇に不満があるんだな。

ヒュンケル

クリスチャン・バラックと同じ部屋なのが、嫌なんだろう。

いつも周囲に不平をもらっていると、そう聞いている。

ヒュンケル

あ、あの…
困ったことがあったら、いつでも俺のところに来てと言っ

たろう。二回も言っただろう（たしかに）。部屋を替えてや

る。誰と一緒に部屋がいい？

ヒュンケル

余計なマネはするな。

余計なものか。彼はバラックを嫌っている。助けてやるんだ、

俺の権限で。

クルック 君の権限？ どれほどのものだ…。

ビューロウ 誰と一緒に部屋がいい？

ヒュンケル ……ありがとうございます、ビューロウ將軍。

ですが…今のままで結構です。

ビューロウ なに…？

ヒュンケル 私は、実は、クリスチャン・バラックが大好きなのです。

彼は僕の友達です。同じ部屋で、とても満足しております。

ビューロウ ヒュンケル…。

ヒュンケル 今のままで結構です。

ヒュンケル （独白）…我慢しろ。今だけだ。俺はいつか將軍になる。

参謀総長になる。陸軍大臣になる。そうしたら、この腐った

ドイツ軍をキレイにするんだ。そして俺が、このドイツを世

界最強の国家にする。その為に、ヒュンケル…今だけは我慢

しろ。

【7】

「ヒュンケルの部屋」

バラック、登場。またしても、異様な状態。

バラック パトラッシュ…疲れたのかい。おやすみ。僕も疲れたよ。何

だかとっても眠いんだ。パトラッシュ…。やがて、大聖堂の

天井から…

ヒュンケル …何してるんだよ。

バラック パトラッシュ…疲れたのかい。おやすみ。僕も疲れたよ。…

ヒュンケル 何してるんだよ。

バラック 「フランダースの犬」ごっこだよ。パトラッシュ…疲れたのかい。

ヒュンケル 貸せっ。…「フランダースの犬」？ またお前は、こんなく

だらしない本を読んてるのかっ。

バラック 返してよ。名作は何回読んでも感動するんだよっ。

ヒュンケル だめだ。これは当分、俺が預かっておく。

バラック …どうしたの？ 何かあったの？

ヒュンケル バラック。

バラック 初めて名前を呼ばれた…（歓喜）。

ヒュンケル お前さ、みんながお前のこと、カゲで何て呼んでるか知ってるか？

バラック えー、なんだろ？○○？

ヒュンケル もっとマイナスなことだよ。

バラック ○○？

ヒュンケル 「バカ」だよっ。

バラック バカかー。なるほどねー。

ヒュンケル お前、悔しくないのかっ。バカって言われて、悔しくないのかよっ。

バラック だって…僕、本当にバカだからさ。しょうがないよ。

ヒュンケル 努力しようとか、考えないのか？

バラック 無理だよ。僕、頭悪いし。ドジばかりだし。

回想のクルック、ベームが登場。

クルック バラックを軍人にしてやってくれ。

ベーム やってくれ。

クルック 頼んだぞ。

ベーム 頼んだぞ。

ヒュンケル (独白) くっそー…。なんとかやる気を出させないと…。

バラック 「バカ」って言われても、全然悔しくないんだ。

ヒュンケル …俺は悔しいぞ。

バラック え？

ヒュンケル 俺は悔しいな。お前が「バカ」呼ばわりされたら、

バラック 本当かいっ。

ヒュンケル え、あ、うん。

バラック 嬉しいっ。僕のこと、悔しがってくれるんだね。やっぱりヒ

ュンケルは友達だよっ。

ヒュンケル だー、違う違う。友達じゃないよっ。

バラック そっか。友達じゃないんだ…(べっこり)。

ヒュンケル あ？ いや、違うんだ。

バラック 違うの？ じゃあ友達？

ヒュンケル 違う。それも違う？

バラック どういうこと？

ヒュンケル だから、そのな、えーつと…よしっ。バラックっ。いいかつ。

バラック うん。なに？

ヒュンケル 俺は、お前と、友達になりたいっ。

バラック わーい。やったー。

ヒュンケル 待て待てっ。ただし、俺と、お前は、対等か？

バラック どういうこと？

ヒュンケル お前は「バカ」だな？

バラック うん。「バカ」だよ。

ヒュンケル 俺は？

バラック 「天才」？

ヒュンケル たしかにそうだ。「天才」だ。その上、ちよつとカッコいいよな。わかるわかる。

バラック それは言つてないけど…。

ヒュンケル 「バカ」と「天才」は、対等じゃない。だから友達にはなれない。

バラック えーっ。

ヒュンケル でも「上司」と「部下」の関係なら、全然アリだよねっ

バラック うん。それはアリだね。

ヒュンケル そういうわけで、今日からお前は俺の部下だあつ（極めて強引に）。

バラック ん？ あれ？ そうなっちゃうの？

ヒュンケル そうなるよっ。なるってっ。マジでなるって。だから、バラックは俺の部下だっ。いいな。

バラック 君の部下かあ。それもいいな。うん、わかった。今日から君の部下になるよっ。

ヒュンケル よし。よろしく頼むっ（敬礼）。

バラック はい。上官殿っ（敬礼）。

ヒュンケル …。

バラック …。

ヒュンケル …。

バラック …あの、それはそれとして、本、返して。ヒュンケル ん？

バラック 「フランダースの犬」…読みたい…。

ヒュンケル だめだ。これは当分預かってくつて言つたら。

バラック なんでっ。なんでだよっ。返してよっ。

ヒュンケル バラック。もう一度聞くぞ。俺は何だ？

バラック えっと、「天才」？

ヒュンケル そうだ。「天才」だ。そしてちよつとカッコいい。うんうん、

言わなくていいよ。わかってるから。

バラック 言っていないってば…。

ヒュンケル その天才の部下が、「バカ」じゃだめだろー。

バラック そう、なのかなあ？

ヒュンケル そういうわけなんで、今日からお前を徹底的にしごいていきまーす。

バラック え、ええっ？

ヒュンケル 俺がお前を立派な軍人に育て上げる。わかったな。

バラック ほ、本気で言ってるのかいつ。

ヒュンケル ああ、本気だ。ビシバシ鍛えてやるぞお。

バラック 僕みたいなやつを鍛えるなんて、正気の沙汰じゃないよ。

ヒュンケル 自分で言うな。どうする？ 「バカ」のまんまじゃあ、俺の部下にはなれないぞ。

バラック うっ…。

ヒュンケル バラック？

バラック うん。わかった、僕頑張るよ。

ヒュンケル よーし。よく言った。じゃあ、この本は預かるぞ。そして、明日から訓練には絶対参加。

バラック えー。

ヒュンケル そして、くれぐれも、医務室に行ったりしないようにっ。

バラック やだよおー。それは許してくれよおー。看護婦さんに会いたい…。

ヒュンケル 子供かお前はっ。女のことなんか考えるなっ。

バラック いや、本当に肌白いんだよ。真っ白。本当に絹みたいなんだってば。白いから。白いからあ。

ヒュンケル 白さアピールしてもだめだっ。看護婦さんのところにはもう行くなっ。

バラック あーあ…。

ヒュンケル …お前だって、若くて健康な体なんだ。鍛えれば、それなりに強くなれる。

バラック 別に、強くなっていいよ。「バカ」でいいよ。

ヒュンケル 「バカ」じゃだめだろ。そんな部下は役に立たない。
バラック そんなことないって。バカにもさ、バカなりに使い道つての
があるんだよ。

ヒュンケル 使い道？

バラック そう。バカの使い道だよ。

ヒュンケル なんだそりゃ？

【8】

「軍事訓練…サッカー」

ベーム ぴぴーっ（ホイッスル）。

ヒュンケル キックオフ。試合が始まった。俺たちは軍事訓練の一環としてさまざまなスポーツもやらなければならない。ラグビー水泳フェンシングっ。そして今日はサッカーだ。皆、行くぞー。

イメージシーン。サッカーの試合。

ベーム ぴぴーっ。試合終了。

クモの子を散らすように一同退場。

「サッカー終了後」

ベルニウス くっそー。負けちゃったよお。あと少して勝てそうだったんだけどなあー。

クレーゼル 惜しかったな。

ベルニウス あいつだよ。負けた原因はあいつだよ。

クレーゼル あーあ。兄貴分に怒られちゃってるよ。

ヒュンケル おい、バラックっ。何なんだよ、さっきのプレイは。
バラック ごめんね。

ヒュンケル お前のせいだぞ、うちのチームが負けたのは。
バラック まったくその通りだ。申し訳ない。

ヒュンケル ちゃんと反省してるのかよ。っていうか、お前、ドリブルの
時、目つぶってただろ。

バラック だって怖いんだもん。人にぶつかったら痛いし。

ヒュンケル お前、それでも軍人かよ。(肩を叩く)

バラック あ、折れたっ。看護婦さん(脱走)。

ヒュンケル 待て待て待てっ。

クレーゼル ヒュンケル。あまりバラックばかりいじめるな。

ヒュンケル こんなバカに情けは不要だよ、クレーゼル。

クレーゼル 今日のはチームみんなのミスだ。

ヒュンケル いいや、チームのミスを引き起こしたのは、こいつのミスだ。

クレーゼル 勝手にしろよ…。(退場)

ベルニウス あーあ。(退場)

ヒュンケル ちよつとクレーゼル…。まったく、お前みたいなのと同じチ
ームになるなんて。俺のクジ運も悪いな。

バラック そうかな。友達と同じチームになれるなんて、ラッキーなん
じゃないか？

ヒュンケル 友達？(誰が?)

バラック 友達。(僕が)

ヒュンケル 友達だなんてとんでもない。お前は俺の部下だろ。

バラック あ、そうだったね。

ヒュンケル じゃあ早速、サッカーの練習をしよう。

バラック へ？

ヒュンケル 明日もサッカーあるんだから。連敗だけは避けるんだよ。

バラック そんなあ。今から練習したって、使い物にならないよ。

ヒュンケル いいから練習っ。上官の命令だ。

バラック は、はいっ、上官殿。

ヒュンケル 大体な、蹴ったボールがまっすぐ飛ばないってのはまずい。
(ボールを取り出す) ちよっと、シュートしてみる。

バラック うん(蹴る)。

ヒュンケル、ボールの軌道を目で追うマイム。変な方向に飛ぶ。

ヒュンケル さっぱりダメだな。ほら、もう一度。

バラック えーい。

バラック、手で投げる。

ヒュンケル おい。手使っただろ。違うよ。もっと、腰を落として。

バラック そりゃあ。

バラック、全然関係ない動き。

ヒュンケル ちよっと、どいて。俺がやってみせる。ボールっていうのは

な、こーやって蹴るんだよ。いくぞ…うらっ(蹴る)。

バラック わあっ。すごい。

ヒュンケル どうだ。まあ、ざっとこんなもんよ。

バラック …あれ？

ヒュンケル んんん？

バラック あの方向は…。

ヒュンケル やばいっ。

ベーム、石像として登場。

バラック あー、あれはっ。

ヒュンケル ベーム將軍の石像だ。

バラック ぶつかるー。

石像のベームにボールがぶつかる。

ベーム　ガラガラガラ…（崩れる）。

ヒュンケル　どうわー。やっちゃったー。どうしよう。

ベーム、人間として登場。

ベーム　おう、みんな。どうした集まって。むむむっ。何だこれは。

ヒュンケル　げ。ベーム將軍っ。

ベーム　私の石像が壊れているっ…ヒュンケル君、これはどうしたこ
とかな。

ヒュンケル　い、いや、これは。

ベーム　君がやったのかっ。なんてコトをしてくれたのだあゝ。

ヒュンケル　あ、あのですね…。

ベーム　言い訳など聞きたくないっ。

ヒュンケル　も、申し訳ありません…。

バラック　僕がやりましたっ。

ヒュンケル　……え？

バラック　すみません。それやったの僕です。

ベーム　バラック。あーあ…なるほどお、お前か。

バラック　すみませえん。ボールが飛んじやって…

ベーム、バラックを殴る。

ヒュンケル　…。

ベーム　まったく…ヒュンケル君に迷惑をかけるなよ。

バラック　はあい。

ベーム、退場。

ヒュンケル …何でだよ。どうしてお前が。

バラック これがバカの使い道だよ。

ヒュンケル え？

バラック 僕バカだからさ。僕、本当にバカだからさ、皆信じてくれるんだ。もし君が何か失敗とかしたら、全部僕のせいにするばいいよ。絶対誰も疑わない。僕、叱られたり、殴られたり、そういうの慣れてるし、僕みたいなヤツは、どうなったっていいけど、君はダメだ。君の経歴に、キズはついちゃいけない。君はいつでも輝いていないといけない。何かあったら、全部、全部僕のせいにしてくれよ。いてて…（痛がる）。

ヒュンケル おい、看護婦さんのところ行ってこいよ。

バラック 否…我にサッカーを伝授せよ…。

ヒュンケル …よし、しっかりついてこい。

バラック はい、上官殿。

二人 わー。

「軍事訓練…フェンシング」

ヒュンケル バラック、剣術の訓練だ。どこからでもかかってこーい。

バラック どりゃー（みずからヒュンケルの剣に刺さりに行く）うわー。

ヒュンケル 自爆かよっ。

二人 わー。

「軍事訓練…馬術」

ヒュンケル バラック、馬術の訓練だ。その暴れ馬に乗ってみろ。

バラック おーよしよし…そうか…なるほどね…（馬と会話）。

ヒュンケル 乗れよっ。

二人 わー。

「軍事訓練…銃器」

ヒュンケル いいかバラック。軍人たるもの、銃はちゃんと使えないといけない。よく狙って撃つんだ。

バラック はい、上官殿。(怖がっている)

ヒュンケル 構え方がなっていないよ。(後ろから支える)

バラック はあっ…時よ止まれ…。

ヒュンケル …何か言ったか？

バラック 上官殿は私のハートを撃ち抜くつもりですか？

ヒュンケル うるせえ。ちゃんと構えて。レバーを外して、撃つ。

バラック (発砲)

ヒュンケル やればできんじゃん。

バラック やったーっ。

ヒュンケル よし、次は語学の授業だ。しっかりついてくるように。

バラック はい、上官殿。

二人 わー。

ヒュンケル、バラック、退場。

【9】

「ドイツ陸軍 参謀本部」

ヘンチュ、登場。

ヘンチュ 六月二十八日、オーストリア・ハンガリー帝国皇太子夫妻が、セルビア王国サラエヴォで暗殺。犯人はセルビア系ボスニア人の青年。たったひとつの銃弾が…。

ヘンチュ、発砲。

ヘンチュ お待たせしました。諜報参謀リヒャルト・ヘンチュだ。参謀

本部の見解を伝える。オーストリア軍がベルグラードに砲撃を始めたのは聞いてますね。これを機に、ロシアはオーストリアと国交断絶。セルビア救援の為に軍隊に動員令を発令。まあ、ここまでは、当然の流れでしょう。

ヘンチュ

その直後、イギリスから戦争回避の会談案がフランス、ロシア、イタリア、そして我がドイツに提出された。…まったく…ふざけてますよね。無論、ドイツは、その案を拒否。同盟国である以上、オーストリアに協力します。

ヘンチュ

戦争ですよ。遂に、私たちが戦う時がきたんです。敵はセルビアだけではない。その背後にいる、ロシアも敵になるでしょう。そしてフランス。イギリス。…オランダの態度も気に入りません。我がドイツ民族の偉大さを全世界に知らしめてやりましょう。

ヘンチュ

…アレクサンダー・クルツク。

クルツク

(登場)

ヘンチュ

カール・ビューロウ。

ビューロウ

(登場)

ヘンチュ

西部戦線を組織しなさい。ドイツの領土を西へ西へと拡大するんです。すなわち、シュリーフェンプランの遂行。ロシアは鉄道が不足しています。ここまで来るには二ヶ月はかかるでしょう。その間にフランス野戦軍を包囲殲滅、最終目標は首都パリの占領。その為に、全軍の八分の七を西へ集結。全作戦の完了期間は四十九日。

ヘンチュ、退場。

ビューロウ

…まさか、お前と組むことになるとはな。

クルツク

イヤな予感はしてたよ。

ビューロウ …正直、今回の作戦、どう思う？ シュリーフェンプラン。
クルック 完璧だ。ロシアとフランス…軍隊の動員スピードの差に目を
つけるとは。この作戦はうまく行く。

ビューロウ そうだろうか…。俺は不安だ。この作戦を成功させるために
は、こちらこそ恐ろしいスピードで軍を動かさなければならな
い。そんなことが可能なのか？ 一日二日なら問題ない。し
かし、一ヶ月以上となると…。

クルック 貴様。参謀本部の方針に意見する気か。

ビューロウ 何が悪い。俺は思ったことを正直に言っているまでだ。

クルック …君が何を思っているようだが、作戦は遂行する。全力を尽くし
たまえ。

ビューロウ 偉そうな事を。俺はお前の部下じゃない。

クルック ビューロウ。私は第一軍の司令官。君は第二軍の司令官。私
のケツを追いかけるだけだ。実質的に、私は西部戦線最高司
令官なんだよ。

ビューロウ 寝言を言うな。最高司令官は、参謀総長モルトケ將軍だ。
クルック もちろんそうさ。しかし、実際の戦場では、第一司令官であ
る私が最も強い権限をもつ。そこを忘れるな。

ヘンチュ、登場。

ヘンチュ 私のことも忘れないで。

クルック … 諜報参謀閣下。

ヘンチュ モルトケ様からのご指名です。私も一緒に行きます。

クルック えっ？

ビューロウ 理由をお聞かせ願いたい。

ヘンチュ 君たちが仲良くやっているかの監視役です、文句ある？

ビューロウ ございません諜報参謀閣下。

ヘンチュ 仲良くしなさいね。

ビューロウ はっ。

クルック …。

ヘンチュ　　クルック、返事が遅い。

クルック　　あ、はい…。

ヘンチュ　　ばーんっ（発砲）。戦場じゃ撃たれてますよ。ねえ？

クルック　　…。

ヘンチュ　　なにその顔。おまぬけー。

クルック　　おまぬけーな私には是非、有能な部下をつけていただきたい

ものですな。

ヘンチュ　　は？

クルック　　我が部隊にはミヒヤエル・ヒュンケルをいただきたい。

ヘンチュ　　ミヒヤエル・ヒュンケル？　誰だそれは。

ビューロウ　　勝手なことを言うな、クルック。

クルック　　ミヒヤエル・ヒュンケルを我が第一軍の司令官に任命する。

ヘンチュ　　誰だそれは。

ビューロウ　　だめだ。ミヒヤエル・ヒュンケルは俺の部隊だ。

ヘンチュ　　誰だそれは。

クルック　　人のものを取るんじゃない。

ビューロウ　　ヒュンケルはお前のものじゃない。

クルック　　誰のものだ。

ビューロウ　　俺たち、ドイツ軍、全員の宝だ。

クルック　　ドイツ軍の宝を君なんぞに任せられるか。

ビューロウ　　実戦経験のないひよっこだ。前線には送れない。

クルック　　あんな有能な男を後ろにおいてはそれこそ宝の持ち腐れ。

ヘンチュ　　誰よミヒヤエル・ヒュンケルって。もー知らない。ミヒヤエ

ル・ヒュンケル？　あなたたちで勝手に決めなさい。（退場）

クルック　　本人の希望を聞こうじゃないか。

ヒュンケル、登場。

ヒュンケル　　クルック將軍の第一軍への配属を希望します。

ビューロウ　　ヒュンケル。

ヒュンケル　　私は、最前線に行きたいのです。

ビューロウ 俺とは、戦ってくれないのか。

ヒュンケル (独白) ビューロウ將軍。あなたはいい方だ…。

ビューロウ ヒュンケル。

ヒュンケル しかしあなたには残念ながら、野心あふれる男の魅力が、まるでない。

ビューロウ …アイツのことは任せた。無事を祈る。

ビューロウ、退場。

【10】

「クルックの部屋」

ヒュンケルとクルック、ベーム。

クルック …怖くはないかい？

ヒュンケル いえっ。戦場こそ、軍人の身をおくべき場所。死など恐ろしくありません。

クルック よく言ってくれた。

ベーム クルック將軍は君の能力を高くかっておいでだぞ。

ヒュンケル 言われなくてもわかっています。

ベーム あ…すみません。

クルック ドイツは今週末には正式に宣戦布告するだろう。早急に部隊を再編成せねばならん。

クルック 君には、第三部隊の司令官になってもらう。

ヒュンケル 司令官？ 私に、一軍を任せていただけのですか？

クルック 頼りにしているぞ、ヒュンケル將軍。

ヒュンケル ははっ。

ベーム 頼りにされてるぞ、ヒュンケル將軍。

ヒュンケル …(振り払う)

クルック 早速だが、これが第三部隊の詳細だ。隊員の名簿も載ってい

る。

ベーム 君の部隊には優秀な者をたくさんつけておいた。安心したまえ。
え。

ヒュンケル、名簿をめくる。

ヒュンケル ベルニウス…。

ベルニウス (登場) よろしくなっ。

ヒュンケル クレーゼル…。

クレーゼル (登場) …。

ベーム どうだ。どうもこいつも、立派な軍人たちだろう。

ヒュンケル …あの。

ベーム どうした？要望があるのなら、今のうちに言いたまえ。

ヒュンケル 一人、どうしても連れて行きたい男がおります。

ベーム 誰だねそれは。

ヒュンケル クリスチャン・バラックです。

ベーム バラック？

クルック ヒュンケル君。これは戦争だ。もう、彼の面倒は見なくてい

いんだよ。君は本当によくやってくれた。

ヒュンケル バラックは、どこの部隊なのでしょうか？

ベーム どこにも所属したらんよ。將軍たちは皆、ヤツを引き受ける

のを拒否したからな。

ヒュンケル ならば、私の部隊にいただけないでしょうか？

ベーム あんな男、何の役にも立つまい。足手まといになるだけだぞ。

ヒュンケル いただけないでしょうか？

ベーム え、えーっと…。

クルック ベーム君？

ベーム あ、いや、全く問題ありません。ヒュンケル將軍が望まれる

のであれば。

ヒュンケル ありがとうございます。

ベーム とんでもない。

ヒュンケル …あ、それとですね。

ベーム まだあるのかね。

ヒュンケル 医務室にいる、絹のように白い肌をもつ看護婦さんを是非私の部隊に。

ベーム は？ 看護婦さん？

クルック 好きにしたまえ。

【11】

「ヒュンケルの部屋」

ヒュンケルと、バラック。

ヒュンケル バラックー。バラックー。

バラック ヒュンケル。ヒュンケル。

ヒュンケル あー。探したよ。君に伝えたいことがあるんだ。

バラック 僕も、君に言いたいことがある。

ヒュンケル 俺が先だ。

バラック いや、先に言わせてくれ。聞いたぞ。君とうとう、司令官に

任命されたそうじゃないか。おめでどう。君ならなれると思

ってたよ。クレーゼルもベルニウスも喜んでた。

ヒュンケル ああ、ありがとう。

バラック しかし、残念だな。僕みたいなやつは、きつと国内で待機だ。

君と一緒に戦えないなんて、部下失格だな。

ヒュンケル それが違うんだよ。クリスチャン・バラック、第三部隊の隊

員として名簿に名前がある。

バラック え？ 第三部隊だって。

ヒュンケル 俺の部隊だよ。俺と一緒に、戦争に行けるんだ。

バラック ほ、本当かい？ でも、どうして僕なんか。

ヒュンケル クルック將軍も、最近のお前の頑張りをちゃんと見てたんだ

よ。評価してくれたんだ。

バラック 僕嬉しいよ。しかも、第三部隊なんて。これで正式に、君の部下になれるんだね。

ヒュンケル 部下だなんてとんでもない。お前は、俺の友達だろ。

バラック 友達…。君の友達なのか。

ヒュンケル 友達だ、バラック。

バラック ヒュンケル。

ヒュンケル あ、それと、ラッキーだったな。あの看護婦さん、第三部隊に転属になったぞ。

バラック えええっ。そうなのっ。

ヒュンケル 本当にお前は運がいいな。

バラック ああ。なんだか、やる気出てきたよ。

ヒュンケル ほら、これ返すよ。

バラック 「フランダースの犬」。

ヒュンケル ずっと預かってて悪かったな。これからは思う存分、読めばいい。

バラック ありがとう。でも、こんな本、僕にはもういらないよ。

ヒュンケル バラック…。

バラック 一人前の軍人になったんだ。こんな本で、めそめそなんてしてられない。

ベルニウス、クレーゼル、登場。

クレーゼル ヒュンケル。準備はできているぞ。早くこっちに来てくれ。

ヒュンケル ああ。分かった。

バラック 準備？ 準備って？

クレーゼル 結成式だよ。司令官として、ヒュンケルの口から隊員達に訓示をするんだ。

「第三部隊 結成式」

ベルニウス おい、いいかお前ら、ヒュンケル将軍がするぞー。訓示をー。

(うんぬんかんぬん)よく聞け。

ヒュンケル 第三部隊隊員諸君つ。ミヒヤエル・ヒュンケルである。君達のようなすばらしい軍人とともに戦えること、大変名誉に思う。さて。「フランダースの犬」という作品を知っているかな？ そう、我が国でも多く読まれているというイギリスの文学作品だ。

フランダースの犬のラストシーンの再現。

ヒュンケル パトラッシュ…。疲れたのかい。おやすみ。僕も疲れたよ。何だか、とても眠いんだ。パトラッシュ…。

ベーム やがて、大聖堂の天井からほのか光がさし込み、天使たちがネロとパトラッシュを取り囲みました。天使たちはネロとパトラッシュを連れて、空高く舞い上がって行きました。お母さんやおじいさんのいる遠い国へと旅立って行ったのです。もうこれからは、寒い事や悲しい事やお腹の空く事もなく、みんな一緒に、いつまでも、楽しく暮らすことでしょう。

ヒュンケル …くだらないっ。

「第三部隊 結成式」

ヒュンケル まったくもってくだらない。これが、「フランダースの犬」のラストシーンだ。諸君らはこの場面を見て一体何を感じる？ もし、目に涙を浮かべたり感傷的な気分になってしまうような者がいるならば、今すぐ除隊したまえ。軍人たるもの、こんな陳腐な話に心をよせてはならない。私はネロが嫌いだ。こんな軟弱な男、見ているだけで吐き気がする。もし、

私がネロだったら、間違いなくパトラッシュを殺す。パトラッシュを叩き殺し、その生肉を喰らい、何としてでも生き延びるだろう。自らの理想の為に、ドイツ国家の繁栄の為に。ネロには根性がない、生への執着がない。私は違う。軍人として、ネロのような死に方だけはしない。どのような手段に訴えてでも生き延び、ドイツの為に死にたいと考えている。諸君らも、そのような鋼の精神を持って私についてきて欲しい。以上。

ベルニウス 決まったぜっ。

バラック ……すごいよ、ヒュンケル。やっぱり君は軍人の鑑だ。僕には君ほどの勇気はないけれど、君の為なら…俺やるぜ。怪我なんて怖くないさ。大丈夫、絹のように白い肌の、看護婦さんがいるからなっ。

【12】

「兵舎」

クレーゼル、登場。それを追うベルニウス。

クレーゼル どけ。邪魔だ。

ベルニウス クレーゼル。頭冷やせよ。何そんなに怒ってんだよ。

クレーゼル 別に怒ってなんかいいえよ。

ベルニウス 怖いのか？ 戦争が。最前線に送られることが。

クレーゼル フランス人なんか怖いわけねえだろっ。

ベルニウス じゃあ何だよ。何が不満なんだっ。

ヒュンケル、登場。

ヒュンケル 騒がしいな。どうした、ベルニウス。

ベルニウス いや、クレーゼルが…。

クレーゼル 今から、ベーム将軍に掛け合ってくる。

ヒュンケル 何だと？

クレーゼル 俺を、違う部隊に変えてくれってな。

ベルニウス おいつ。違うんだよ、これは…。

ヒュンケル 俺の下では戦えないというのか。

クレーゼル ああ、そうだよ。

ヒュンケル クレーゼル。力を貸してくれよ。友達だろ。

クレーゼル パトラッシュだって友達だろ？

ヒュンケル え…？

クレーゼル パトラッシュはただの犬じゃねえ。ネロにとっては友達なんだ。化けの皮が剥がれたな。あんたは、理想の為には平気で友達を殺すんだ。それがあんたの正体だ。

ヒュンケル …そんなこと

クレーゼル 無いと言えんのか？

ヒュンケル それがドイツの為になるなら…たしかに友達を殺すかもしれないな。

クレーゼル …短い付き合いだったな。

ヒュンケル 待て。

クレーゼル バラックにもよろしく言うておいてくれ。

ヒュンケル 待てっ。仕方ないだろ。俺たちは、国家の為に戦っているんだ。くだらない私情は捨てなければ、崇高な目的は達成できない。

クレーゼル 全然理解できねえな。

ヒュンケル じゃあ、お前は何だ？ お前は、何のために戦っている。

クレーゼル …田舎に、オフクロがいるんだよ。

ヒュンケル …。

クレーゼル 俺の家は農家だが、借金でほとんど畑取られちまってるんだ。オフクロは俺の稼ぎで、何とか生活できてるんだよ。

ヒュンケル そうか、金か？ 金が目的か。

クレーゼル 何が悪い。オフクロに楽させてやりてえんだ。アンタらよりずっと立派な目的だと思うがな。ドイツだと？ 国家だと？

そんなものの為に死ねるかよっ（掴みかかる）。

ヒュンケル 触るな。…泥がつくだろ、どん百姓。

クレーゼル …。

ヒュンケル ベーム將軍には俺から話しておく。…俺に逆らったんだ。第一軍にはいられないぞ。ビューロウ將軍の、第二軍への配属となるだろう。

クレーゼル …。

クレーゼル、退場。

ベルニウス （独白）若く、才能のある二人が、どうしてこんなにもすれ違ってしまうんだ。

ヒュンケル …ベルニウス。

ベルニウス え、何だよ？

ヒュンケル お前、クレーゼルと一緒にビューロウ將軍のところに行け。

ベルニウス え、ええっ。何だよ。俺はお前の下がいいよ。

ヒュンケル 頼んだぞ。

ベルニウス 何だよ。

ヒュンケル 頼んだぞ。

ベルニウス 何だよ。

ヒュンケル （抱きしめる）友達だろ。

ベルニウス 友達だな。

ヒュンケル 頼んだぞ。

ベルニウス わかった。うおー（どっか行った）。

【13】

ヘンチュ、登場。

ヘンチュ 八月二日。ドイツはイタリア・トルコと秘密同盟を結成。さ

らに、ルクセンブルクに侵入。同時に、フランス軍との直接対決の為、ベルギーに領内通過要求を提出。ベルギーはこれを却下。

「軍議」

クルック、ビューロウ、登場。

クルック 構うものか。

ビューロウ 落ち着け、クルック。

クルック ベルギーごとき、叩き潰してくれる。

ビューロウ ベルギーは中立国宣言をしている。中立侵犯は、国際世論を敵にまわしてしまう。

ヘンチュ 国際世論？

ビューロウ 国際世論です。

ヘンチュ 軍人のくせに政治の話？

ビューロウ 軍人のくせに政治の話です。

ヘンチュ 笑わせないでください。

ビューロウ しかし、イギリスに参戦の大義名分を与えてしまいます。

ヘンチュ あげちゃえ、あげちゃえ。

ビューロウ 無益な戦いは避けるべきです。

ヘンチュ 負ければ無益。だが勝てば有益。

クルック 勝てばいいんだビューロウ。これは戦争だ。勝者だけが正義だ。

ヘンチュ 勇ましいですね、クルック。お手並み拝見。

クルック はっ。

ビューロウ …作戦にはもちろん従う。だが、クルック。ひとつだけ約束してくれ。俺の部隊から離れるな。

クルック なんだ、ひとりぼっちが淋しいのか。

ビューロウ ひとりぼっちになるのはお前だ。最前線のお前は、俺から少しでも離れたら孤立するんだぞ。

クルック …うんざりだ。

ビューロウ クルックつ。

クルック ― ヒュンケル將軍の第三部隊に出撃命令つ。

ヒュンケル、登場。

クルック ベルギーのリエージュ要塞を攻略しろ。フランダース地方へ
侵略する足がかりとするのだ。

ヒュンケル これは俺にとっての初戦。負けるわけにはいかない。

ベルニウス、クレーゼル、登場。

ビューロウ 第一軍からの転属兵とは君たちか。

ベルニウス はっ。

ビューロウ ミヒヤエル・ヒュンケルは知っているか。

クレーゼル ヒュンケル？

ベルニウス 友達です。いや、親友です。

クレーゼル …そんな男は知りません。

ヒュンケル …突撃つ。

「リエージュ砦攻略戦」

戦争のイメージシーン。

ヘンチュ ドイツ西部戦線は快進撃を続けています。ロレーヌではフランス軍を撃破。一週間後には、ベルギーの首都ブリュッセルを占領。ドイツは…フランダースまで進軍。

「クルックの兵舎」

クルックとベーム。

ベーム いやー、ドイツ軍はもはや敵なしですな。

クルック まったくだ。もう少し手ごたえがあったほうが面白いのだがな。

ベーム このままの調子で行けば…クルック將軍の参謀本部入りは間違いないですな。

クルック まだだ。まだ手柄が足りない。リエージュの攻防戦では、ビューロウに先を越されてしまった。

ベーム た、たしかに。たしかに、たしかに、ごもつともよし、夜明けとともに、さらに南に進むぞ。

ベーム 南？ パリには攻め込まないのですか？

クルック そんなことはいつでもできる。今は、フランス本隊を追い詰めるのだ。やつらは敗走している。その背後から、一気に攻め滅ぼす。

ベーム なるほど。それはようございますな。早速、全軍に伝えましょう。

ヒュンケル、登場。

ヒュンケル お待ちください、クルック將軍。

ベーム ヒュ、ヒュンケル將軍。どうしたのだ？

ヒュンケル 今、軍を南下させるのは危険です。

ベーム 何だと。

ヒュンケル ビューロウ將軍率いる第二軍との距離をお考えください。間隔が開き過ぎです。ここで動けば我々は、孤立してしまいます。

ベーム 孤立してよいのだ。その分、ビューロウに邪魔されずに手柄を独占できる。

ヒュンケル パリにいる守備部隊も気にかかります。南に進めば、我が軍はパリに脇腹を見せることになります。そこを攻め込まれませんでしたら…。

ベーム パリのフランス軍は守備部隊だぞ。パリを守ることしか考えていない。攻めてくるわけが無いだろう。

ヒュンケル いや、分かりません。パリ軍事総督ヨゼフ・ガリエニは、フランス軍一の策士です。どんな手を使ってくるか…。

ベーム 君は何も知らんな。ガリエニは今、病をわずらっている。病人に何ができる。

ヒュンケル それに第一…兵は皆疲れております。

ベーム あ？

ヒュンケル ここは一旦、休息をとるべきです。

ベーム 何を甘いことを言っている。ドイツ人なら、まだまだ戦えるはずだ。

ヒュンケル 一日四十キロの移動…睡眠時間は五時間ありません。本当に戦えると思っっているんですかつ。

クルック 安心したまえ。敵は敗走しているのだ。逃げるウサギを狩るようなもの。楽な仕事だよ。

ヒュンケル …本当にフランス軍は逃げているのでしょうか。私には、秩序だった戦略的撤退をしているようにしか見えません。

ベーム 何？

クルック どういうことだ？

ヒュンケル 連中は、我々を誘い込もうとしているのでは。

ベーム 一体どこに？

ヒュンケル グランモラン川です。川の向こうにはイギリス遠征軍が待機しています。もしイギリスが動けば、我々は挟み撃ちにあいます。

ベーム イギリスだと？ ヒュンケル、何を言い出すのだ。イギリス

は、フランスの為に血を流すような連中ではない。動かんよ。

ヒュンケル しかし…

ベーム ルカトーでも散々脅してやったからな。近いうちに、本国に帰っちゃうんじゃないか？

ヒュンケル しかし、もし動いたら。動いた場合は、どうなさるおつもりですかつ。

クルック 動かないと言っている。

ヒュンケル …。

クルック 臆病風に吹かれおつて。ロレーヌでも、アルデンヌでも、シ

ヤルルロアでも、ドイツは勝ち続けているのだ。何を恐れる
ことがある。ベーム。これまでのフランス軍の被害は？

ベーム 死者は二十五万。怪我人はその三倍かと。

ヒュンケル …。

クルック 二十五万だぞ。ドイツ軍は、フランス人を二十五万人も殺し
たのだ。最強だ。負ける理由がない。

ヒュンケル …ですが。

クルック くどいっ。

ヒュンケル …。

クルック 一軍を任せただけで凶に乗るな。明日の準備を急ぎたまえ。

ベーム はっ。

ベーム、退場。ヒュンケルとクルック、二人きりに。

ヒュンケル …。

クルック …ヒュンケル、あまり失望させないでくれ。どうして僕が、

あの男から離れられたかわかるか。

ヒュンケル え？

クルック 君がそばにいてくれるからだよ。君のような男がそばにいて
くれるから、私はどこまでも先に行けるのだ。それに…。

今回の進軍は、非公式ではあるが、諜報参謀閣下の許可を得
ている。

ヒュンケル ええっ。

クルック 私の時代が来るのだ。しっかりとついてきなさい。

クルック、退場。

ヒュンケル この進軍はどう考えても危険だ…。それを許可するなんて…

諜報参謀閣下はどのようにお考えなんだ。

【14】

ヘンチュ、登場。

ヘンチュ どう思います？

ヒュンケル 逆に聞かれた？

ヘンチュ 会いたかった。敬礼はどうした。諜報参謀リヒャルト・ヘンチュだ。

ヒュンケル ミヒヤエル・ヒュンケルです。

ヘンチュ 正直に言ってください。今回の作戦、どう思います？ クルツクの進軍。

ヒュンケル 正直。…今回の作戦は、失敗してしまうような気がします。

ヘンチュ 失敗？ やれやれ…考えが浅すぎますよ。…これは、失敗、ではなく、

「大」失敗です。

ヒュンケル え？

ヘンチュ 今回の作戦通りに戦えばドイツは負けます。

ヒュンケル …いや、しかし、諜報参謀閣下のことです。きっと深いお考えがお

ありなのでしょう。お聞かせください。クルツク將軍に、あえて負

ける作戦を提出なさる、その真意とは。

ヘンチュ クルツクには…負け犬になってもraitたいんです。

ヒュンケル …は。

ヘンチュ 負け犬ですよ。わんわん。

ヒュンケル …お、おっしゃっている意味が、わかりませんが。どうしてわざわざ

負けなければいけないのです。勝てばよいではないですか。

見事、大勝利を収めれば…。

ヘンチュ かっこいい。でも、もう勝てっこないんです。ロシアの動員が完了し

たんです。

ヒュンケル は…？ 参謀本部の見解では…ロシアが来るには、二ヶ月は

かかると聞きました。

ヘンチュ 間違えちっち。これによりシュリーフェンプランは崩壊しま

した。西部戦線のこれ以上の華々しい戦果は期待できません。

いま考えなければいけないことは、どう負けるか。そして負

けた後のドイツをどうするか、です。

ヒュンケル

…。

安心しなさい。戦争は東でも行われています。東部戦線ではヒンデ
ンブルク将軍がロシア軍を20万人殺したそうです。素晴らしい。
彼にはドイツの英雄になってもらいましょう。その為にも、クルッ
クにはちやあんと負けてもらいましょう。…ねえ、ちよつと、聞いて
る？ 私の話。

ヒュンケル

負けるとわかっているのに、戦うのですか？

ヘンチュ

負ける為に戦うんです。

ヒュンケル

何万人もの兵士たちが巻き添えになるのですよ。何千人もが死ぬ
ですよ。

ヘンチュ

やむを得ません。

ヒュンケル

あんた…何様のつもりだつ。

ヘンチュ

天才ですよ。君とおんなじ。

ヒュンケル

…。

ヘンチュ

長い目で見れば、とても有意義な敗戦になるでしょう。

ヒュンケル

…謀報参謀閣下。負ければあなただってタダではすみませんよ。軍
を敗戦に追い込んだ責任を問われ…。

ヘンチュ

大丈夫。クルックがちやあんと負ければ、モルトケ様は参謀総長を
辞任させられる。後任はきつとファルケンハイン閣下。私、すごい
可愛がってもらってるの。

ヒュンケル

あんた狂ってるよつ。

ヘンチュ

ヒュンケル君。私がどうしてこんな話を、君に話しているのか、お
わかりですか？

ヒュンケル

え…。

ヘンチュ

君のことが好きだからです。君は優秀だ。

ヒュンケル

…。

ヘンチュ

今夜は戻らなくていい。君はこつそり、前線を離れ、私のそばに残りな
さい。負け犬になる必要は無い。

ヒュンケル

私は軍人です。作戦には、従います。

ヘンチュ

…え？

ヒュンケル 作戦を無視し一人で離脱することなどできません。…すぐに前線に戻り戦います。作戦通りに。

ヘンチュ 何を言ってるんです。負けるんですよ。

ヒュンケル ええ。もし、それがいやでしたら、作戦の撤回をっ。

ヘンチュ 君、ずるい…。自分を人質に脅迫するんですね。

ヒュンケル お願いです。こんな愚かなことはおやめください。

ヘンチュ 作戦は変えません。変わるのはいあなたですよ司令官。ここに残りなさい。

ヒュンケル 命令には絶対服従です。

ヘンチュ ヒュンケル君。西部戦線はぐちゃぐちゃ。ドイツの軍部もぐちゃぐちゃ。

一度すっきり、掃除しなければいけません。

ヒュンケル なるほど。では、このミヒヤエル・ヒュンケルごと、掃除してもらいましょう。

ヘンチュ …私の見込み違いだったか。君ならわかってくれると思ったのに。

ヒュンケル 作戦の撤回を…作戦の撤回をっ。さもなくば、私は死んでしまいますっ。

ヘンチュ ラストチャンスです。ここに残れ。

ヒュンケル …失礼します。

ヘンチュ …そんなに…クルックが好き？

ヒュンケル いいえ。私が好きなのは…絹のように白い肌をもつ看護婦さんです。

ヘンチュ …？

ヒュンケル 負けませんよ、私たちは。

【15】

「ヒュンケルの兵舎」

バラック、登場。

バラック ヒュンケル…明日も戦いだそうだな。

ヒュンケル ああ。

バラック どうしたんだ？

ヒュンケル …。

バラック やめろよそんな顔。どうしたんだよ？

ヒュンケル 明日は…負ける気がする。

バラック ……そうなのか。それは、いやだな。

ヒュンケル うん。いやだよ。

バラック 怪我するかな。

ヒュンケル もしかしたらな。

バラック 死んだりほしくないよな。

ヒュンケル ……

バラック ……

ヒュンケル ……

バラック ……あ、あのさ。一つ、頼みごと聞いてくれないか。

ヒュンケル え？

バラック ずっと考えてたんだけどさ。もし僕がさ、弾とか当たって、

血が出るだろ。たくさんたくさん、血が出るだろ。そしたさ。

ヒュンケル やめろ。お前は大丈夫だっ。お前は強くなった。弾なんて、

当たらないよ。

バラック いいから聞いてくれ。血がたくさん出て、血が足りなくなっ

たらさ、僕に血くれないか？

ヒュンケル ……

バラック 僕、君の血がいい。君の血を分けてくれよ。僕に、血をくれ

よ。

ヒュンケル うん。なんていうか…血液型違うだろ？

バラック 別にいいよ。

ヒュンケル いや、よくないだろ。

バラック いいんだよっ。

ヒュンケル ……

バラック いいんだよ。君の血なら。

ヒュンケル ……お前になら、喜んでくれてやるよ。好きなだけもっていけ。

バラック じゃあ、5リットルほど…。

ヒュンケル 俺死んじゃうよ。

【16】

「ビューロウの兵舎」

ビューロウのもとに、ベルニウス、クレーゼル、登場。

ビューロウ 何っ。クルックが南下しただっ。

ベルニウス は、はいっ。先ほど、そのような報告が入りました。今頃は、クレーゼル グランモラン川に到達しているでしょう。

ベルニウス よく言ったっ。

ビューロウ あのバカ…。あの周辺は完全なくぼ地だ。

ヘンチュ 正気の沙汰とは思えませんねー。

クレーゼル 我々も、動いた方が良いでしょうか？

ビューロウ …だめだ。遠い。我が軍との距離は絶望的に遠い。もう間に合わない。何が起こっても、我々は助けることができないっ。

ヘンチュ、登場。

ヘンチュ じゃあ、助けなくていいよ。

ビューロウ 諜報参謀閣下…

ヘンチュ 僕らだけで、帰りましょう。ビューロウ、私をベルリンに連れて帰って。

ビューロウ いえ…私は…。

ヘンチュ ナニ？ クルックを助けに行きたいの？ もう無駄だってわかってるのに？

ビューロウ …。

ヘンチュ あなたを置いてっちゃった男よ。仕返しよ。こっちも置いてっちやえ。

ビューロウ …。

ヘンチュ …判断が遅いぞカール・ビューロウ。イギリス遠征部隊が動いたら、壊滅的な打撃を受けるのは明白。迅速かつ的確な判

断を。

ビューロウ …撤退。

ヘンチュ …大きな声でもう一度。

ビューロウ …撤退っ。すぐさま撤退し、本隊との合流を図るっ。

「第一軍」

激しい銃声が響く。

ヒュンケル …どうしたっ。何が起こったっ。

ベーム …イギリス遠征軍が攻めてきた。

ヒュンケル …何だっ。

ベーム …西にパリの守備部隊が現れた。

ヒュンケル …ガリエニが動いたっ。

ベーム ……。

ヒュンケル …ガリエニが動いたのっ。(掴みかかる)

ベーム …退路を絶たれました。どうします

ヒュンケル …隊列を乱すなっ。撤退だ。マルヌ川まで撤退しろっ。

ベーム …撤退だ。ヒュンケル様の言う通りっ。

撤退戦のイメージシーン。

やがてバラックが撃たれてしまう。

ヒュンケル …バラックっ。バラック。しっかりしろ。

バラック …ヒュンケル。痛いよ。足をやられた。

ヒュンケル …立てるか？

バラック …肩を貸してくれないか。一人じゃ歩けない。

ヒュンケル …逃げるぞ。逃げ。生き延びるんだよ。早く。

バラック …ヒュンケル。

「ビューロウ軍 撤退戦」

ベルニウス、登場。

ベルニウス うえーい。撤退うえーい。

クレーゼル、登場。

ベルニウス ク、クレーゼルっ。

クレーゼル 無事か。ベルニウス。

ベルニウス ああ、なんとか大丈夫だ。

クレーゼル よし。じゃあ、行くぞ。

ベルニウス え、ちよっと、どこ行くんだよ。

クレーゼル 決まってるだろ。マル又川だ。

ベルニウス マル又川？

クレーゼル 第一軍は、多分そこにいる。俺たちも行くぞ。

ベルニウス うえーい。撤退うえーい。本国まで逃げるんだよ。

クレーゼル そんなことができるか。助けに行くんだよ。

ベルニウス は？

クレーゼル ヒュンケルとバラックを見殺しにする気か。

ベルニウス お前…。

クレーゼル 友達だろ。何があっても、助けに行くんだっ。

ベルニウス 無茶だ。俺たちだけで何ができるんだよ。

クレーゼル そんなこと知るか。とにかく行くんだよ。

ベルニウス クレーゼル。落ち着けてっ。うえーい。撤退うえーい。

クレーゼル もういい。俺一人で行く。

遠くから銃声。伏せる二人。

ベルニウス やばいって。敵はもうそこまで来てる。

クレーゼル 畜生っ。…こんな時に、弾が切れやがった。

ベルニウス 弾が切れやがったか…もう諦めろよ。な？ 弾が無くちゃあ、

何もできないだろ。

クレーゼル ベルニウス。お前は、弾持ってるのか？

ベルニウス いや、俺もこれ（銃）に少し残ってるだけだ。

クレーゼル よし、俺に分けてくれ。

ベルニウス わかった。お前の頼みなら。ひーふーみーよー…ってコラっ。

ふざけんなバカ。こんなトコで弾が無かったら、やられちまうだろっ。

クレーゼル いいからよこせっ。早くっ。

ベルニウス 勘弁してくれよ。弾はやれないっ。

クレーゼル 早くよこせっ。早くしねえと…早くしねえと、ヒュンケルがやられちまう。バラックがやられちまう。友達だろ。

ベルニウス 友達…

クレーゼル 助けに行かなきゃダメなんだよ。

ベルニウス、引き金を引く。倒れるクレーゼル。

クレーゼル …え？

ベルニウス …。

その場から立ち去ろうとする、ベルニウス。

クレーゼル …オフクロ。

ベルニウス、再び発砲。クレーゼルの身体が翻る。

クレーゼル オフクロオオオ…。

ベルニウス、再び発砲。クレーゼル、動かなくなる。

ベルニウス …撤退…撤退…撤退…撤退…。

ベルニウス、闇に消える。

【17】

「敗戦後の本陣」

クルツクのもとに、ベーム、登場。

ベーム　クルツク將軍。ヒュンケルが、生還してきました。：バラッ

クも一緒です。

クルツク　：（頷く）。

ヒュンケル、登場。

ヒュンケル　：それみる。俺の言ったとおりだろ。

クルツク　：。

ヒュンケル　イギリスが動いたじゃねえか。ガリエニがパリから出てきた
じゃねえかつ。俺たち全員、死に行つたようなもんじゃね
えかよつ。おい、クルツク將軍様。どんな気分だったんだ。
弾の当たらないとこでさあ、何千何万っていう味方が死んで
いくの見んのはさあ、どんな気分だったんだよ。え？　どん
な気分だったんだよつ。

ベーム　控しろヒュンケル。クルツク將軍は西部戦線最高司令官にあ
られるぞ。

ヒュンケル　へー。最高司令官殿つてのは味方を犬死にさせるのが任務な
のですか。それはすごい。俺も早くそんな立派な軍人になり
たいもんだな。

クルツク　：。

ヒュンケル　逃げるぞ。今ならまだ間に合う。土地も名誉もいらぬ。
本国まで撤退だ。次に襲われたら、今度こそ全滅だ。

クルツク　：ベルリンにいた頃、君は隊員達の前で演説をしていたね。
「フランダースの犬」について。とても興味深かった。

ヒュンケル　あ？

クルック　しかし、どうなのだろう。君は本当に、パトラッシュが殺せるのか？

ヒュンケル　何言ってるんだよ。

ベーム　今回の敗戦は、すでに皇帝陛下の耳にも入っている。このまま本国へ帰っても、我々に未来はない。責任を問われ、よくて陸軍を除隊。悪ければ…（銃口を突きつける）。

クルック　我々全員な。

ヒュンケル　…ふざけんな。そんなことってあるか？

ベーム　皇帝陛下を納得させるためには、参謀本部はどんな手でも使う。俺は反対したっ。

ヒュンケル　俺は反対したっ。

クルック　連帯責任だ。結果として君は作戦に参加した。

ヒュンケル　…。

クルック　…まあ聞いてくれ。責任を免れる方法が、一つだけあるんだ。

ヒュンケル　…。簡単さ。他の者に、責任を転嫁する。

ヒュンケル　何だと。そんなこと…。

クルック　ベーム。

ベーム　我々はイギリス遠征軍及びパリ駐屯軍の存在には十分注意を

払っていた。ところが偵察から突如、イギリス軍はセーヌ川下流まで「撤退」したとの報告が入った。我々はそれを聞き、安心してフランス軍を追撃した。しかし、実際は、イギリス軍は軍の陣形を立て直してただけで、全く移動していなかった。その結果、挟み撃ちに合い、撤退を余儀なくされた。

ヒュンケル　…なんだそりゃ？

クルック　作戦のミスではなく、偵察のミスということにする。

ベーム　我々への処罰も、軽くなるだろう。

ヒュンケル　バカか？　陣形の立て直しを撤退と報告するなんて…。そんなバカなミスありえない。戦場だぞ。戦場で、そんなバカみたいいな…。

ベーム　それが…そうでもないんだ。

クルック いるんだよ…そういう、とてつもないバカをやりそうな人間

が。

ヒュンケル …。

ベーム しかし、計算外だった。生きて帰ってくるとはな。

クルック もう一度聞こう。君に「パトラッシュ」が殺せるか？

ヒュンケル できるわけないだろっ。

クルック ならば君が死ぬか。

ヒュンケル あ？

クルック 我々の情けがわからんのかっ。

ベーム 我々は当初、君を殺す予定だったのだっ。

クルック 君を殺し、全ての罪を君に着せるつもりだったっ。

ベーム しかし、やらなかった。

クルック 何故だか分かるか。

ベーム 君は優秀だからだっ。

クルック 殺すには惜しいからだっ。

ベーム しかし、あの男なら。

クルック 死んでもいいだろ。

ベーム 役立たずだっ。

クルック 役立たずだっ。

ベーム 君はダメだ。

クルック 役に立つからだっ。

ベーム 死んではいけない。

クルック 代わりに殺せっ。

ベーム 自分の代わりに殺せっ。

クルック 殺せば助かるっ。

ベーム 生きていけるっ。

クルック ドイツの為に戦えるぞっ。

ベーム ドイツの為に戦えるぞっ。

クルック 君はこんなところで死んではいけない。

ベーム ドイツの為に生き延びろっ。

クルック 生きるんだっ。

ベーム 生きるんだっ。

クルック もう一度聞こう。君にパトラッシュが殺せるか。

【18】

「野営地」

ヒュンケルとバラック。

バラック ヒュンケル…。

ヒュンケル …。

バラック 大変なんだ。血が、全然止まらない。

ヒュンケル …。

バラック ヒュンケル？

ヒュンケル …。

バラック 分けてくれるよね。約束したもんね。

ヒュンケル …え？

バラック 約束だろ。血を分けに来てくれたんだろ。ね。

ヒュンケル …いや。逆だ。

ヒュンケル、バラックに銃口を突きつける。

バラック …。

ヒュンケル きつと戦争なんだ。敵は、外だけじゃないんだ。

バラック …ヒュンケル。

ヒュンケル 俺は生きるぞ。今回の敗戦、悪いのはお前だ。全部お前が悪

いんだ。俺は悪くない。

バラック …。

ヒュンケル 俺のかわりに死ねよ。

バラック …よかった。

ヒュンケル え？

バラック よかった。僕、君の役に立ってるんだね。

ヒュンケル …。

バラック 撃てよ。撃てって。全部僕が悪いんだよね。そうだよ。それでいいんだ。それがバカの使い道だよ。僕すっごいバカだからさ、きっと誰も疑わないよ。あのバカ、またヘマをやったんだなって。皆信じるよ。僕、バカだからさ。僕がここで死んでも、みんな納得だよ。バカだから、敵の弾をよけられなかったんだろうって。笑うやつもいるかもしれない。バカだなあ。本当に、バカだなあって。

ヒュンケル …。

バラック 撃てよ。撃つんだ。撃って、君は生きる。

ヒュンケル … 生きるってのは…かっこ悪いんだな。

バラック ううん。すてきなことだよ。君は優秀だからさ、きっと生きて、人の役に立ってるんだろうな。僕はダメだよ。バカだから、生きてても人の役になんか立てない。よかった。君の為に死ぬるんだからね。本当によかった。こんなバカでも、役に立ってたね。僕を部下にして、よかったね。撃てよ。

ヒュンケル …。

バラック どうしたんだい？ 何人も殺してきただろ。こんなバカ一人殺すのなんて、わけないだろ。…ああそうか。僕が君の目を見てるのが悪いんだね。分かったよ。目を閉じるよ。これでどうだい。こうすれば、殺し易いだろ。

ヒュンケル、バラックに近づく。

ヒュンケル ……震えてんじゃねえかよ。

バラック …。

ヒュンケル 怖いんだろ？ 死ぬのが怖いんだろ？

バラック …。

ヒュンケル 本当は、死にたくねえんだろ。じゃあ命乞いしろよ。助けてください。死にたくありませんって。命乞いするんだよ。

バラック ……(クビを振る)。

ヒュンケル いいから、命乞いしろよっ。お前のこと、死んで欲しくない
って思ってるやつ、いるんだぞ。そいつの為に、命乞いしろ
よ。死にたくないって言えよ。

バラック ……(クビを振る)

ヒュンケル ……できない。できない。できない…。

バラック バカ野郎。引き金を引くんだ。ドイツを最強の国家にするん
だろ。その為に、手段なんか選んじゃいけないんだろ。君は
將軍じゃないか。將軍が、そんな弱気でどうするんだよ。

ヒュンケル 將軍だと。…お前みたいなバカ一人の命も助けられないで、
何が將軍だ。何が国家だっ…。

バラック、静かになる。

ヒュンケル ……バラック。疲れたのかい。おやすみ。僕も疲れたよ。何だ
か、とても眠いんだ。バラック…。

ヒュンケル、バラックを抱きしめる。

出演者一同、登場。二人を取り囲む。救いの笑顔。

ヒュンケルとバラックの側にベーム(天使)が寄り添う。

ベーム やがて、大聖堂の天井からほのか光がさし込み、天使たちが

ネロとパトラッシュを取り囲みました。天使たちはネロと
パトラッシュを連れて、空高く舞い上がって行きました。

お母さんやおじいさんのいる遠い国へと旅立って行ったので
す。もうこれからは、寒い事や悲しい事やお腹の空く事もな
く、みんな一緒に、いつまでも、楽しく暮らすことでしょう。

「ベルリン ドイツ軍参謀本部」

クルック 今回の敗戦は、第三部隊の単独行動が原因であります。連中

がもっと慎重に動いていれば、こんなことにはなりません
でした…。

ヘンチュ 司令官はどうした？

クルック ……はい？

ヘンチュ 第三部隊の司令官、ミヒヤエル・ヒュンケル。

ビューロウ ……お前の親友だったな。

ベルニウス ヒュンケル？ ……そんな男は知りません。

ヘンチュ 司令官はどうした？

クルック 司令官ですか？ 司令官のミヒヤエル・ヒュンケルは、フラ

ンダースで戦死いたしました。

ベーム、銃を取り出し、ヒュンケルを射殺。

ヒュンケルの身体が、バラックから引き離される。

了

※ 上演を希望する際は、有料・無料に関わらず、
必ず劇団までご連絡いただき、戯曲使用の許諾をお受けください。